

えほんのアリス



えほんのアリス

ルイス・キャロル さく

おおくぼゆう やく



むかしむかし アリスという おんなのこが いてね、 とっても へんてこな ゆめを みたんだ。

いったい どんな ゆめだったか、 ききたい？

さあて、 これが はじめの ばめん。 しろうサギが すぐそばを おおあわてで はしっていくところ、 アリスと すれちがいざま あしを とめて ポケットの とけいを とりだしてね。



そんなの おもしろくないって？ よく みてごらんよ、 ウサギが とけいを ポケットに いれて もちあるいてるんだよ？ そりゃあ ウサギだって とけいをもつなら ポケットに いれるってもんさ。 くちに いれたって もちはこべないしね —— それに はしりまわるんなら、 てが たりなくなるし。

あと おめめが あかくない？ (しろうサギって みんな おめめが あかいと おもうんだけど。) みみも あかい、 きている うわぎは すてきな ちゃいろ、 それにほら ポケットから あかい ハンカチが のぞいてる。 ほかにも あおのネクタイやら きいろの チョッキとか、 ほんとに とっても おしゃれで。

「やんぬるかな！」と ウサギさん。「ちこくで おじやる！」 いったい どこへちこくしそうなのかな？

うん、 それはね ごぜんさまの ところなんだ。(もうちょっとしたら だいどころにいる そのひとの えが でてくるからね。) ごぜんさまはね いつも いらいらしてる おばさまのこと。 ウサギさんは またせたりしたら ひどく しかられるって おもってね。 かわいそうに これでもかってくらい びくびく。(どんなにぶるぶるしてたか わかる？ ちょっと ほんを ゆすってごらん、 みぎひだりに。

ほら、 ぶるぶるしてる。) だってね ウサギさん ばつとして くびを ちょんぎられるかもしれないんだよ。 ハートの クイーンが いつも やることなんだけど、 はらを たてたら ちょきん(さしえは また あとでね)。 といっても そのひと いつも ちょんぎれって いいつけるだけで、 そうなると おもいこんでるんだけど じつは だあれも そんなこと しない。

はてさて、しろウサギが はしりぬけていったんだけど、アリスは そのさきがきになってね。だから ついてったんだ。で、はしって はしっていると いきなり ウサギあなに おっこちちゃって。

ずっと ずっと おちつづけてね。ぴゅーうーうーうー、このまま せかいを まっすぐ つきぬけて、うらがわに でちゃうんじゃないかって アリスは そんな きがしてきて！



ふかい ふかい いどみたいなのに おみずは ぜんぜん なくって。こんなところへ ほんとに おちちゃったら どんなひとだって きっと しんじょう。でもほら ゆめのなかだから おちたって けがひとつ ない。だって おちてると おもってるあいだも ほんとは よこになって なんのこともなく ぐっすり ねむってるだけなんだから！

それでも いつかは あなのそこに たどりつくわけで、アリスは うずたかく つまれた おちばと えだのうえへ どすん。けがひとつ なく ぴよんと おきあがると また ウサギのあとを おいかけたんだ。

こうして アリスの へんてこな ゆめが はじまったってわけ。こんど しろウサギを みかけたらね、アリスちゃんみたく へんてこな ゆめを みてみたら いいんじゃないかな。

というわけで アリスは ウサギあなを おっこちたあと じめんのなかを えんえん はしってたんだけど、 きがついたら いきなり おおきな ひろまに いてね、まわりに ぐるりと ドアが いっぱい。

ところが どのドアも かぎが かかってて。 てことは かわいそうに アリスは ひろまから でられない。 だから なんだか かなしくなってきたね。

それでも しばらくしてから テーブルのそばに いて。 ぜんぶ ガラスで できていて さんぼんあし（さしえでは 2ほんが はっきり、 のこりの 1ぽんが ちらっと みえてるよね、 わかる？）、 で そのテーブルのうえに ちっちゃな かぎが あった！ ひろまを ぐるりと まわって、 これで ドアが どれか あかないか ためしてみたんだけど。

かわいそうな アリス！ そのかぎ どのドアも ひらけなくって。 でも さいごに やってきた ちっちゃな ドア、 するともう うれしいのなんの、 かぎが ぴったり あったんだ！

そのちっちゃな ドアを あけて、 しゃがみこんで なかを のぞきこんだんだけど、 なにか みえたとおもう？ もう と一っても すてきな おにわで！ そこに いくたくって いくたくって！ なのに ドアが ちっちゃすぎるんだ。 からだを おしこんでも とてもむりで。 きみが ねずみの すあなに はいれないのとおんなじこと！

かわいそうに アリスちゃんは しっかりとじまりして、 かぎを テーブルにもどしてね。 すると さっきまで なかったものがあるってことに きがついて（もういちど さしえを みてね）、 これ いったい なんだとおもう？ こびんだよね、 ラベルが ついていて そこには 「ノンデ」の もじ。

そんなわけで くちを つけてみる。 すると とっても おいしくて、 あらためて いっきのみ。 そのあと もう へんてこなことになってさ！ おもっても みないことだよ。 ふふ、 じつはね。 アリスが ちいさく ちいさくなっていて、

さいごには ちっちゃな おにんぎょうさんくらいの おおきさになったんだ！

そこで ひとりごと。「あら このおおきさなら ちいさな あのドアも うまく とおりぬけられてよ！」ってことで はしりだす。 でもね たどりついた ドアは あかないわけで、 かぎは テーブルのうえ、 しかも これじゃあ とどかない！ どうして しっかりとじまりなんか しちゃったんだろうね！

はてさて、 そこで また みつけたのが ちっちゃな パンケーキ。 こんどは

こげあとが 「タベテ」って ことばに なってて。 なので さっそく たべて ぜんぶ のみこんだ。 そのあと どうなったと おもう？ うん、 おもいも よらないこと！ ふふふ、 じつはね。

アリスは おっきく おっきーくなっていてね。 せなんか もとよりも たかくなって！ こどもよりも おっきく！ おとなよりも おっきく！ ぐんぐん によきによきと！ えを みてごらん、 こんなに のびちゃってさ！

いったい どっちがいいと おもう？ ネコちゃんくらいの おおきさの ちっちゃな アリスと、 てんじょうに あたまを ぶつけっぱなしの おっきな アリス。

3 なみだまり

もしかして アリスが たのしんでるとか おもってる？ ちいさい パンケーキを たべて きづいたら とんでもなく おっきくなってたからって。 そりゃあ なんなく ガラステーブルから かぎを ひろえるし、 ちっちゃな ドアも あけられる けど。

うん そりゃあ できるとも。 でもね、 とおれないのに ドアを あけて どうなるって いうの？ ひどいってもんじゃないよ、 かわいそうに！ あたまを ゆかちかくまで ひくくすれば、 かためで なんとか のぞけるくらいなんだ！ でも できるのは それだけ。 こう おおきくなってしまうと、 すわりこんで、 むねが さけそうなくらい おおごえで なくのも むりない はなしさ。

えーん えーん ないて。 そのうち なみだが ひろまの まんまんなかに こぼれていって、 かわが ながれるみたいになって。 あっというまに おおきな なみだまりが できて、 ひろまの はんぶんが ひたっちゃった。

もう どうしようもないとこだったんだけど、 そこへなんと たまたま しろウサギが ごぜんさまのもとへ むかうところ このひろまを とおりがかったんだ。 めいっぱい めかしこんでて、 かたてには しろの かわてぶくろ ひとくみ、 もう かたてには ちいさな おうぎ。 ぶつぶつ ひとりごとを 言っててね、「あいや、 ごぜんさま、 ごぜんさま！ おまたせして かんかんだなんて いやでおじやる！」

なのにさ アリスに めもくれずで。 そこで くちを あけて 「もし、 よろしくって ー」 なんていうと てんじょうから こえが してるみたいで。 なにせ あたまが たかーいところに あったからね。 すると ウサギは ものすっごく おびえて。 てぶくろと おうぎを とりおとして、 ぜんそくりよくで にげて った。

そこで ほんっと へんてこなことになって。 アリスが おうぎを とりあげて じぶんで あおぎだしたんだ。 すると ごらんあれ、 みるみる ちいさくなって、 1ぶんも したら ネズミくらいの おっきさに！

ここで さしえを みてね。 つぎに おこったこと もう わかるよね？ ほんとに うみみたい、 ね？ でも まちがいなく これは さっきの なみだの いけ ー ぜんぶ アリスのなみだで できたものなんだ！

そういうわけで アリスは いけに ぼちゃん。 ネズミも ぼちゃん。 いろんなのが いっしょになって およいでる。

このえの およいでる アリス、 かわいくなあい？ みなもの したあたり、 アリスの あおい くつした みえるよね？

でも このネズミ どうして こんなに あわてて およいで アリスから はなれようとするのか。 はて そのわけは、 アリスが イヌネコについて はなしだしたからなんだ。 ネズミは いつだって イヌネコの はなしなんか いやだからね！

きみが じぶんの なみだで できた いけを およいでるとして、 そこで だれかが おべんきょうとか おくすりのことを はなしだしたら、 やっぱり めいっばい およいで どこか いっちゃいたくならない？

アリスと ネズミが なみだの いけから あがると、 やっぱり ずぶぬれで。たくさんいた へんてこ いきものたちも おんなじで、 みんな いっしょに おっこちててね。 そこにいたのは ドードー（まんまえに いる おおきな とりで、つえに よっかかっているね）、 それと アヒルに インコ（アヒルの まうしろであたまごしに みる やつね）、 あと こどもワシ（インコの ひだりがわに いる やつ）とか そのほか いろいろ。

さてところで そのみんなだけど どうやって からだを かわかしたのか さっぱり わからなくて。 けれども ドードーが —— あたまの いい とりだから —— どーどーめぐりを するのが よろしい なんて 言ってね。 いったい なんのことだと おもう？

わからない？ だったら きみは まだまだ こどもだね！ じゃあ よおく きいてね、 すぐに ちゃんと わかるから！

まずは はしる コースを つくること。 そのかたちは まるなんだけど とりあえず ちゃんと まるになって ひとつに つながってれば なんでもいい。

とにかく やるひとは コースの あちこちに たって、 くつつきすぎなければ なんでもよくて。

しかも 「いちについて よーいどん！」なんて かけごえも いらなくて、 みんな すきなときに はしりだせばいいし、 すきなときに やめていい。

そこにいた いきもの、 アリスと みんなは ぐるぐる はしりっぱなしで それを かわききるまで つづけたんだ。 で、 さいごに ドードーが みんなの かちって 言って、 みんな ごほうびが もらえることに！

もちろん アリスが ごほうびを あげる やく。 とはいえ あげるほどのものもなくってね、 たまたま ポケットに ドライフルーツが あったもんだから、 ひとりひとつずつ みんなに わけた。 すると アリスのぶんの ごほうびが たりなくって！

そこで どうなったと おもう？ あと アリスが もってたのは、 おさいほうの ゆびぬきだけ。 ほら さしえを みて、 どうなったか わかるよね。

「こっちへ かしなされ。」って ドードーが いった。

で、 ドードーは ゆびぬきを うけとって、 また アリスに かえして、 こんなことば。「みごとな このゆびぬきを われらより おうけとりくだされ！」 というわけで そのばの いきものが ぱちぱち わーわー。

こんな へんてこな おくりものって ある？ かんがえてもみてよ、 おたんじょうびプレゼントを くれるってひとが、 きみの おもちゃばこのところへ 行って、 そのの きれいな おにんぎょうを とりだして 「はい、 いいこだから このすてきな おたんじょうびプレゼントを あげよう！」なんて いうのと、 まだ もってない あたらしいものを くれるのと、 どっちが いい？

さあて つぎのおはなしは、しろウサギのおうちでアリスがどうしたか。おぼえてる？ ウサギが てぶくろとおうぎをおとしたときのこと。アリスのこえが そらから きこえてきたのかって びっくりしたんだよね。だから てぶくろもおうぎもないままじゃあ そりゃあ ごぜんさまのところへもおうかがいできない。そこで ちょっとしてから さがすために ひきかえしたんだ。

ドードーと へんてこどうぶつたちが どこかへ いっちゃうころには、アリスもひとりきりで あたりを うろついててね。

で、ウサギさん どうしたとおもう？ なんとアリスを じぶんちのメイドさんと かんちがいして、あれこれ いいつけだしたんだ！ 「メリアン！ いますぐうちに いって、 てぶくろとおうぎを とってくるでおじゃる！ いそぐでおじゃる！」

ひょっとすると あかい おめめは まえが あんまり みえないのかも。だってアリスとメイドさんは にてもにつかないんだよ？ それでも とっても いいこだったから、ちっとも きをわるくせずに ぜんそくりよくで ウサギのおうちへ むかってね。

つごうよく ドアは あいてて。だって ちりんちりん やることになったら、きっと ほんもののメリアンが ドアをあけにくるからね。そうしたらアリスは なかに いれてもらえない。それから うんよく ほんもののメリアンには あわないまま かいだんをとことこのぼれて。アリスが どろぼうだって つかまえられたら たいへんだからね！

あがって すすんで ウサギのおへやにはいると、そのの テーブルのうえにてぶくろがおいてあったから、さっと とって でていこうとした そのとき、たまたま めにはいったんだ。テーブルのうえの こびんが。もちろん あのこ とば 「ノンデ！」って ラベルつき。そりゃあ アリスも のむよね！

まったく、よかった よかった。じゃない？ だって ここで のまなかつたら、これから はなす すてきな おはなしも おこらなかつたんだから。そうなる と やっぱり ざんねんだよね？

もう アリスのおはなしにも なれてきたから、つぎに どうなるか わかるよね？ むりなら きいてて。

おっきく おっきーくなつたんだ。ほんの あっというまに おへやはアリスでぎゅうぎゅう、まるっこい びんに ジャムが ぎっしり つまってる、ちょう

ど ああいう かんじ！ てんじょうまで ずっと アリスで、 おへやの どのすみにも アリス！

ドアは うちがわに ひらくものだったから、 やっぱり どうやっても あく すきまが ないわけで。 そのとき ウサギが まちくたびれて じぶんで てぶくろを とりにかえってきたんだけど、 もちろん なかに はいれなくって。

で、 どうしたと おもう？（さあて ここで さしえ。） トカゲの ビルを おうちの やねに のぼらせて、 えんとつを おりてけて いったんだ。 ところが たまたま アリスの かたあしが だんろに つっこんでね。 ビルが えんとつを おりてくる ものおとが したとき、 かるく ちょこんと けりあげちゃったから、 ビルは はじきとばされて、 おそらへ ぴょーんと でっちゃったんだ。

かわいそうな ビルくん！ そう おもわない？ きっと ものすごく ふるえて たよ！

えっ、そんなワンコちゃんには みえないって？ でもほら、 いまは アリスの
ほうが ちっちゃくなっちゃったから。 そういうわけで ワンコが おっきく み
える。 しろうサギの おうちで みつけた ちいさな ふしぎな パンケーキ、 そ
れを ひとつ たべた アリスは ぐんぐん ちいさくなって そのまま ドアを と
おれるようになってね。 そうでないと もう おうちから そとへ でられないとこ
ろだった。 かわいそう、 じゃない？ だって これからはなす へんてこな こ
となんて ゆめにも おもってなかったんだもん。

とにかく ほんとは ちいさな ワンコ、 ね。 かわいい ペットじゃ なあい？
なら ちょっと このようすを みて、 アリスの さしだした ぼうきれに ほえ
てるよね！ ほら アリスも ちょっと こわがってる、 ずーっと。 だって でっ
かい アザミの かげに かくれてるし、 こっちに とびかかってくると いけない
からね。 そうなったら 4とうだての ばしゃに ひかれたのと おんなじくらい
アリスが ひどいことになっちゃう！

ペットの ワンコちゃん きみの おうちでも かってる？ いるなら いつも イ
ヌに やさしく、 ちゃんとした えさを あげると いいんだけど。

むかしむかし あるところに ぼくの しりあいの こどもたちが おりました。
せのたけは きみと おなじくらい。 ペットに ワンコを かっておりました。 な
まえは ダッシュ。 これは そのこどもたちから きいた、 たんじょうびの ごち
そうを あげたときの おはなし。

「しってる？ あるひね、 そういえば きょう ダッシュの たんじょうびだって
なって、 いったの。『ダッシュに たんじょうびの ごちそうを あげようよ。
あたしたちも たんじょうびに もらうでしょお？』 でね、 いっぱい かんがえて
『じゃあ なにが いちばん いいかな、 じぶんたちの たんじょうびなら？』
でね、 また いっぱい かんがえて さいごに みんなで ひとつに きめたの。
『じゃあ オートミールの おかゆだね、 ぜったい！』 だからね、 ダッシュも
ぜったい きにいるって おもったの。

おてつだいさんの ところに いて、 ひとさら おかゆを つくってって ipp
てね、 それから ダッシュを おうちに よんできて いったの。『さあ ダッシュ
、 おたんじょうびの ごちそう あげる！』 ダッシュが よろこんで とびはねる
って おもったのに、 なのに かみついてきて！

だから まえに おさらを おいて、 いったの。『もう ダッシュ、 がつつかな

いの！ いいこだから おとなしく たべて！』

で、 ダッシュ ペロペロって したを つけたんだけど、 そうしたら、 その、 とんでもない かおに なっちゃって！ でね、 あのね、 だいきらいだって、 もう ちっとだって たべるもんかって！ だから あたしたち スプーンで ぜんぶ のどに ながしいれなきゃいけなくって！」

アリスも この ワンコに おかゆを あげるのかな？ するとは おもえないけどね。 そんなの どこにも もってなかったし、 さしえにも おさらがないしね

。

ワンコから にげだしたあと、アリスが どうなったか しりたい？ ほら じゃれるには ほんと おおきすぎる どうぶつだったからね（たとえば カバの こども。 いっしょに たのしく じゃれられる？ むりだよ、 きっと でっかい あしで ずどんと パンケーキみたく ペしゃんこに されちゃう！）。 だから きづかれずに にげだせたとき アリスは ほっとしたんだ。

で、 あちこち うろついたんだけど、 なにを したら もとの おおきさに もどれるのか さっぱりで。 そりゃあ なにかを のみくいすれば いいんだろうけど。 これまでも そうだったしね。 でも それが なんなのか おもいも つかなくって。

そんなとき 心と あらわれたのが でっかい キノコ。 せたけが たかくて つまさきだち しないと てっぺんに あるものなんて みえなくって。 で なにか みえたとおもう？ こんな の ぜったいに いいあてらんないね！

なんと おっきな あおムシ。

いまから はじまるのが アリスと あおムシの おはなしなんだけど、 まずは このさしえを よく みてね。

あおムシの まんまえに おいてある へんてこなのは みずギセル。 けむりを すうために つかうんだ。 ながい くだを とおって けむりが、 へびみたく うねうね やってくるってわけ。

で、 あおムシの ながっぱな、 しゃくれあご、 わかる？ というより、 はなみみたいな あごみみたいなもの、 が ただしいかな？ ほんとは あしのうちの ふたつなんだけど。 ほら イモムシは あしが たくさん あるよね。 そのしたを みてくと どんどん ついてるし。

きっと めんどうだと おもうんだけど、 あおムシは まいばん なくなっていないか あんなに たくさんの あしを かぞえるんだって！

それに すごく めんどうだと おもうんだけど、 どのあしから うごかしたらいいか きめなきゃいけないんだってさ。 なんせ 40も 50も あしがあるから、 ちょっと あるくにしても どのあしから うごかしたらいいか きめるだけで それなりの じかんが かかって、 もう あるくどころじゃないよ！

ともかく アリスと あおムシ いったい なにを おはなししたんだろうね？

その、 アリスは いったんだ、 おおきさが いろいろ かわって もう わけがわからないって。

すると あおムシが、 ちょうど いまの おおきさ、 これを どう おもうって
きいてきてね。

アリスの へんじは、 もうちょっとくらい おおきくなりたい —— 8センチじ
ゃあ あんまりな おおきさだって！（8センチを はかってみるとしたら なかゆび
くらいの おおきさかな、 ほら このときの アリスが それくらい。）

そこで あおムシが おしえてくれて。 キノコの かたはしを たべると おっき
くなって、 もうかたはしを たべると ちっちゃくなれるぞって。

なので アリスが ふたきれ ちぎって おそろおそろ くちに いれると、 まあ
けっこう いいかんじの せかっこうに なんとか なれてさ！ ようやく ごぜん
さまのところへ むかったんだ。

アリスが ごぜんさまのところへ うかがった おはなし、 ききたい？ ほんとおもしろい おうかがいになってね。 きたいして いいよ。

もちろん はじまりは ドアの ノック。 でも だっれも でてこなくて。 だから じぶんで あけることに。

さあて さしえに めをやると、 なかに はいった アリスの めに とびこんだものが ちょうど わかる。

ドアが まっすぐ だいどころに つづいていてね。 ごぜんさまは おへやの まんなかに すわって あかちゃんを あやしてる。 あかちゃんは わんわん。 スープは ぐつぐつ。 コックさんが スープを まぜまぜ。 ネコ ー チェシアネコが ー にやにや、 チェシアネコは いっつも そうなんだ。 アリスが はいってきたときは ぜんぶが こんなぐあい。

ごぜんさまは すてきな ぼうしと ガウンを みにつけてる、 よね？ でも ざんねんながら かおは あんまり すてきじゃあなくて。

あかちゃんは ー まあ きみだって もっと かわいいこ みたこと あるとおもうんだけど、 その、 もっと おとなしいこ、 ね。 でもね いま よおくみておいてね、 つぎ でてきたときに わかるかどうか たしかめるから！

コックは ー まあ もっと うでききの コック ひとりふたり あったことあるかもね。

でもでも きっと これより ものすごい ネコは みたこと ないはず！ だよね？ ちょっと こんなネコちゃん かってみたくない？ みどりの めが あいらしくて、 えがおも とっても かわいくて。

ごぜんさま アリスには ひどく ぶしつけで。 まあ しょうがない。 その、 じぶんの あかちゃんなのに 「ブタ！」とか よぶくらいだし。 ブタじゃない、 よね？ あと コックに アリスの くびを たたききれって いったんだけど、

もちろん そんなこと コックは しなくて。 さいごには あかちゃんを こっちに なげつけてきてさ！ だから アリスは あかちゃんを うけとめて、 つれだしたんだ。 そうするしか なかったと おもう。

というわけで おうちからはなれて、 もりを ぬけて、 かわいくない そのあかちゃんを かかえて行ってね。 すごい じたばたしてたから つかまえておくのも ほんとうに たいへんで。 でも さいごには ひだりあしと みぎみみを ぐっと つかめば いいって きづいたんだ。

でも ふつうの あかちゃんを こんなふうにつかんでみちゃあ いけないよ、めっ！ こんなふうにあやされたい あかちゃんなんて あんまり いないからね！

さて、あかちゃんは ぶーぶー いいつづけてるわけで。だから アリスも まがおで いわなきゃいけない。「もし ブタになっちゃうんなら もう なんにもしてあげなくてよ、 いいこと！」

って おわりに かおを のぞいてみたんだけど、 いったい どんなことになってたと おもう？ さしえを ごらん、 こたえあわせ。

「えっ、 アリスがあやしてるの、 あのあかちゃんじゃ ないよ？」

ほおら、 やっぱり わかんなかった。だから よく みておいてって いったのに！ うん、 これが あのあかちゃん。 こブタに かわっちゃったんだ！

なので、 アリスは したに おろして、 もりのなかへ はなしてね。そこでひとりごと。「ほんっと かわいくない あかちゃん！ でも ブタになったら ちょっとは ましかも。」

そのとおりだと おもわない？

ひとりぼっち、ひとりぼっち！ かわいそうな アリス！ あかちゃんどころか
ブタも もう いっしょじゃない！

そんなとき チェシアネコが あたまのうえの きに やどってたもんだから、と
っても うれしかったこと わかるよね。

たしかに ネコは とっても すてきな えがおなんだけど、 ちょっと みて、
はが ぎっしり！ アリス すこしだけ ひいてない？

うん、 まあ、 すこし。 でも やっぱり ネコだって はは いるわけで。 そ
れに いらいらしてたら なるべく にやにやは しないしね。 だから それなりに
アリスも うれしくって。

アリス とっても おすまししてなあい？ あたまを すくくと もたげて、 りよ
うてを うしろに まわして、 まるで ネコに ものを おしえてるみたい。

そういえば おしえておきたいことが ちょっと あるんだ。 アリスと ネコの
このさしえを みておいてね。 さあて へそを まげないでね、 おねがい！ ほん
の まめちしきだから！

きの そばに、 キツネノテブクロが あるの わかる？ これ、 どうして キツ
ネノテブクロって いうか しってる？ もしかして キツネと かかわりあるとか
おもってる？ まちがい！ キツネは てぶくろ はめないよ！

もともとは 「こびとの てぶくろ」って いったんだ。 でも 「こび」って き
つねの ばけものでも あるからね。

ここで まめちしきは おしまい。 いらいらが おさまるまで ちょっと まって
るね。

どう？ すっかり おちついた？ もう だいじょうぶ？ くちの すみも ひん
まがってない？ じゃあ つづきを。

「チェッシャにゃん！」って、 アリスが よんでね。（ネコにしては すてきな な
まえじゃなあい？）「おしえてちょうだい、 ここから どちらに いったほうが
よくって？」

すると ネコは、 ぼうしやの ところへ いくたきや こっちの みち、 やよい
ウサギだったら あっちの みち、 って おしえてくれてね。「どっちも へんにゃ
やつ！」って ネコは いうんだけど。

そのあと ネコが きえちゃって！ まるで ロウソクの ひが きえるみたいに！
まあ アリスは やよいウサギのほうへ あるきだすんだけど、 すすんでいくと

また そこに ネコが いてさ！ そんなに すぐ でたり きえたりは いやだって
いってやったんだ。

すると こんどは ネコも きえるのが すごく ゆっくりになって、 はじめが
しっぽ、 さいごが にやにや。 へんてこじゃあない？ ネコが いなくなってる
のに、 にやにやが あるなんて。 みてみたい？

このページの すみを めくってみたら、 にやにやを みる アリスが でてく
るよ。 ネコを みてたときよりも、 ちょっとだけ びくびくしてない、 かな？

これは おかしな おちゃかい。 チェシアネコと わかれたあと、 アリスは チェシアネコの おしえてくれたとおり、 やよいウサギと ぼうしやに あいにいったわけ。 みつけたとき そいつらは おおきな きのしたで おちゃかいをされていてね。 あいだには ヤマネも すわっていて。

テーブルに ついてたのは この3にんだけだったんだけど、 そのまわりには ずらりと ティーカップが ならんでてね。 テーブル ぜんたいは みえないけど、 ほら さしえの ぶぶんだけでも カップが 9こも あるよね、 やよいウサギの てにあるのも くわえると。

そいつが やよいウサギ。 みみが ながくて、 かみに わらが ぐちゃぐちゃ からまってる。 わらが あるって あたまが おかしい しるしだからね ーなぜかは わからないけど。 ぜったいに かみのけに くくりつけちゃ だめだよ。 ひとに あいつの あたまは おかしいって おもわれるからね！

それから テーブルの はしに すてきな みどりの アームチェアが あったんだけど、 それが まるで アリスの せきみたいに みえてね。 だから そこへ 行って こしを おろしたんだ。

そうして やよいウサギと ぼうしやと ながなが おはなしを して。 ヤマネは あんまり しゃべらなかつた。 ほら いつも ぐっすり ねむってるからね、 たまに ちょっと おきたりするだけで。

ねむってるぶんには やよいウサギにも ぼうしやにも つかいがってが いいんだよ、 だって あたまが まるくて ふかふかだから、 まくらみたいで。 ひじを ついても、 もたれかかっても、 きがねなく はなしを しても いいんだ。 ふつうは あたまを まくらがわりに されるのなんて いやだよな？ でも ヤマネみたく ぐっすり ねむってたら、 きづかないよ。 だから きにならないんじゃないかな。

ざんねんながら アリスは のみもの たべものを すこしも もらえなくって。 でも しばらくしたら おちゃも バタートーストも ごじゆうに どうぞ ってことになって。 ただ いったい どのせきで たべたんだろうね、 そもそも おさらじたいがないし。 おさらがあるのは ぼうしやだけで。 いや、 きっと やよいウサギにも あったかも。 だって みんなで じゅんぐり せきを かえたら（それが このへんてこな おちゃかいの きまりだからね）、 つぎに アリスが すわるのは やよいウサギの せきだし、 そのとき ウサギが じぶんの おさらミ

ルクつぼを ひっくりかえしてるって きづいたみたいだし。 きっと おさらと ミルクつぼは おっきな ティーポットの うらに かくれてたんだよ。

このぼうしやは いつも うりものの ぼうしを もちあるいていてね。 あたまに のっかっているのも そもそも うりもの。 ほら、 ねだんが ついてるよね
——「10」と 「6」—— これは 「ぎんか10まい どうか6まい」ってこと。
こんなの へんな うりかたじゃない？ あと きれいな ネクタイをつけてない？
ほら いいかんじの きいろい ネクタイ、 あかの みずたまいり。

そいつが たちあがって アリスに ひとつ。 「かみを きりたまえ！」 おおきな おせわ、 だよな？ アリスの かみって きらなきやいけないかな？ とっても かわいらしい ながさだと —— ちょうど いい ながさだと おもうんだけど。

これが まえに おはなしした きれいな おにわの いっかく。 ほら、 アリスは さいごに なんとか ちいさくなれたから、 あのちいさな ドアも ぬけられてね。 たぶん にほんあしで たった ネズミくらいの せたけ。 なので これは もちろん ちっちゃな バラの きで、 こいつらは ちっちゃな にわし。

なんて おもしろい こびとさんたち！ いや、 ひと、 なのかな？ たぶん いきてる トランプなんじゃないかな、 あたまと てあしが ついてるから、 こびとみたいに みえると。 で、 あかい ペンキで なにを しているの、 かな？ と、 いうことで アリスに わけを はなしたんだ。 ハートの クイーンが そのあたりに あかい バラの きが ほしいって いったらしいんだけど、 なのに かわいそうに このにわしくんたちは おおまちがいを しでかして、 かわりに しろいのを うえちゃったんだ。 それで もう びくびくしてね、 だって クイーンさま きっと はらを たてて、 みんなの くびを ちょんぎれって いうに きまってるからね！

ものすごい すごい じょうおうさまで、 だれかに はらを たてると きまってる いうんだ。「くびを はねよ！」 だれも だれかの くびを ちょんぎったり しないんだけどね。 だって いうことなんて だれも きかないし。 でも いつも そういうふうに いうんだ。

さあて おいつめられた このにわしたち、 どうしてみたのか わからない？ バラを あかく ぬって見たんだ。 おおあわてで、 クイーンが くるまえに やっちゃえってね。 そのあとなら たぶん クイーンも もともと しろい きだったなんて わからないしね。 そうなれば たぶん こびとたちも くびを ちょんぎられないで すむし！

ほら きに 5りんの おおきな しろバラが あるよね —— これを みんな あかくするのは けっこう たいへんだよ！ まだ 3つと はんぶんしか おわっていないし、 ほら、 それに せめて むだばなしで てを とめたりしなけりゃ —— がんばろうよ、 こびとさん、 がんばってよ！ そうしないと おわらないうちに クイーン きちゃうよ！ きに しろバラが あるって しられたら となると おもう？ きっと 「くびを はねよ！」って。 もう がんばれって、 おまえら！ いそげ、 いそげ！

クイーンが きちゃった！ おこってない？ ああ、 かわいそうな アリスちゃん！

ゲートボールは やったこと ある？ いろんな いろの おおきな きの ボールが あってね、 それを ころがして、 はりがねの ゲートの あいだに とおすんだ。 ながい とってつきの おおきな きづちが あって、 それで ボールを こづいて ころがすんだよ。

さあて さしえを みてごらん。 ほら アリスが ゲートボールを やってるところだよ。

「でも できてないよ、 なんか よく わかんない おおきいの かかえてるし！ ねえ、 あれじゃあ きづち もてないよ？」

うん、 あのね、 あの よく わかんない おおきいの（ほんとの なまえは フラミンゴなんだけど）、 あれが つちなんだよ！ このゲートボールでは ボールはいきた ハリネズミ —— しってる？ ハリネズミって ボールみたく まんまるに なれるんだよ —— で あと つちが いきた フラミンゴって わけ！

それで アリスは ただいま ちょっと おやすみちゅう。 ひさしぶりの おともだち、 ごぜんさまと おはなしするためにね。 もちろん なくさないよう つちを わきに かかえててね。

「でも おともだちじゃないし、 あんなやつ！ あかちゃんを ブタっていうし、 アリスの くびを たたききれって いったし！」

うん、 あれは ほんの じょうだん。 アリスの くびを たたききれだなんて。 あかちゃんは —— まあ ほんとに ブタだったしね！ あのえがお みてごらんよ！ ねえ、 あのくち アリスの あたまより でっかいよね。 でも あれでみえてるのは はんぶんだからね！

でも ちょっとだけ おはなししたところで、 やってきた クイーンが アリスをつれてっちゃってね。 グリフォンと ウミガメフーミに あわせるんだって。

グリフォンが なにか しらないの？ えっ！ じゃあ なにを しってるの？ こいつは もんだいだ。 でもでも、 さしえを ごらん。 あかい あたま、 あかいつめに みどりの うろこ、 このいきものが グリフォン。 これで わかったね。

それから そのとなりが ウミガメフーミ。 あたまが こウシなんだ。 だって ウミガメフーミの スープには こウシの あたまを つかうからね。 これで わかったね。

「でも こいつら なにしてんの、 アリスの まわりで あんなに ぐるぐる？」

えっ、もちろん わかってると おもってた！ エビの フォークダンスを おど
ってるんだよ。

グリフォンと ウミガメフーミに つぎ あったとき、 おぎょうぎよく きいてみ
たら、 きっと また おどってくれるよ。 ただ あんまり ちかよらせないでね。
かわいそうに アリスみたく つまさきを ふまれちゃうから。

ハートの クイーンが タルトを つくる はなし きいたこと ある？ そのあと どうなったか いえる？

「うん、 あったりまえ！ うたが ぜんぶ おしえてくれるじゃない！

ハートの クイーンが タルトを つくる
なつの さなか いちにち かけて
ハートの ジャックが タルトを ぬすむ
かくれて こっそり ひとりじめ！」

うん そうだね、 うたは そうなる。 ところが うたが こうだからって ジャックに おしおきするとか なしですよ。 まず わるい やつとして つかまえなきゃ いけなくて、 てくびに くさりを つけて、 ハートの キングのまえに つれてって、 ちゃんとした おさばきを しなきゃね。

さあて はじめにある おおきな さしえを みれば、 このおさばきが どんなに おおごとか わかるよね。 さばくひとは キング！

キングって とっても えらい、 よね？ でも そんなに たのしくなさそう。 かつらのうえに のってる おおきな かんむりは おもそうで きゅうくつそうだしね。 でも やっぱり どっちも つけとかないと。 でないと あいつが さばくひとで キングだって みんなに わかんないしね。

で、 クイーン なんだか むすっとしてない？ テーブルのうえに あるのは タルトの おさらだけ、 いっしょうけんめい つくったのにね。 それで いたずらな ジャックを みつけて（てくびから くさりか たれてるの わかるよね？）、 おまえが わたしの つくった タルトを ぬすんだんだ、 って。 だから ちょっと くらい むすっとしてたって むりもないってわけ。

しろウサギが キングの そばに たちながら、 あのうたを よみあげてて、 そいつが どんなに いたずらな ジャックかって みんなに つたえててね。 で、 はなしあうひとが（ほら、 はこがたの ぎせきに カエルと アヒルの ふたりが みえるよね） そいつの 「ゆうざい」「むざい」 どっちかに きめるってわけ。

さあて これから おはなしするのは、 アリスに なにが おこったか。

でね アリスも はこがたの ぎせきの そばに すわってて。 まのあたりにした ひと ってことで よばれたんだ。 まのあたりって なんのことか わかる？ わるいひとが、 おさばきされるようなことを した、 そのげんばを みたってことなんだ。 べつに ただ このおさばきで だいじなことを しってるだけでも いいん

だけど。

ところが アリスは クイーンが タルトを つくるところなんて みてないし、
ジャックが タルトを たべるところも みてない。 ほんとのところ、 なあんにも
知らない。なのに いったい どうして よびだされたのか。 そんなの ぼく
にも わからない！

とにかく みんなが よびたがってね。 で しろウサギが おおきな ラッパを
ふいて、「アリス！」って おおごえ だして。 で アリスは おおあわてで たち
あがって それから ——

それから なにが おこったと おもう？ うん、 スカートの はこがたの ざせ
きに ひっかかって、 ざせきが ひっくりかえって、 さらに はなしあうひとたち
も かわいそうに そこから おっこちちゃって！

12にん ぜんいん わかるか やってみようね。 ほら、 おさばきを はなしあ
うひとの かずは 12のはずだから。 ええと、 カエル、 ヤマネ、 クマネズミ
に イタチ、 ハリネズミに トカゲ、 チャボ、 モグラ、 アヒルに リス、 で
モグラの うしろに ながい くちばしの わめいてる とりが いるね。

でも まだ 11。 あと もうひとり みつけないと。

あっ ちいさな しろい あたまが モグラの うしろから でてる。 ちょうど
アヒルの くちばしの した？ とにかく これで 12。

さしえを かいたひとによると うるさい とりさんは コウノトリの ひなで（
もちろん わかったよね？）、 ちいさい しろあたまは ハツカネズミの こどもな
んだって。 かわいい どうぶつじゃ なあ？

アリスは みんなを そろりそろり ひろいあげてね。 あんまり けがしてないと
いいんだけど！

あらあら これは！ いったい どういうこと？ アリスに なにが あったんだ？
さて それを これから できるかぎり おはなしするね。これは おさばきが
おひらきに なったところ。キングが 12にんに ハートの ジャックの ゆうぎ
い むぎいを きめろと 言ってね —— つまり タルトを ぬすんだのは そいつ
なのか、ほかの やつが たべたのか きめるって ことなんだけどね。でも い
じわるな クイーンは とにかく おしおきするって さきに きめたくって。こん
なの ただしくないよね？ だって ほら、タルトを ぬすんでないんだったら も
ちろん おしおきなんか だめだし。おしおきを うけるにしても じぶんの やっ
たことにじゃないと、ね？

だから アリスは いったんだ。「がらくたの からっぽ！」

すると クイーンは こういう。「こやつの くびを はねよ！」（これは おこっ
たときの おきまりの ことばだったね。）

で アリスの へんじ。「あんたたちなんか こわくない！ ただの トランプじゃ
ないの！」

となると みんな ぶんすかするわけで。ちゅうに とびあがって アリスのうえ
へ みんなして ふりかかってきまして。まるで ざあざあ にわかあめみたいに。
つぎに どうなったかなんて おもいも よらないよ。そのつぎはね、アリスが
このへんてこな ゆめから めが さめたんだ。きづいたら トランプは ただ
きから おちてくる はっぱに なってて、かぜが びゅーんて かおのほうへ ふ
きおろしてきててね。

アリスみたいに へんてこな ゆめ みられたら、すてきじゃなあい？

いちばん いい やりかたは こう。まず きのしたで ねそべってね、じっと
まったあと ついに しろうサギが とけいを てに はしってきたら そこで め
をとじて、あとは アリスちゃんに なったつもりで。

さようなら、 美しい アリス、 さようなら！

(おしまい)

Original Credit

The Original Text: *The Nursery "Alice"* (1890)

The Original Author: Lewis Carroll (1832-98)

えほんのアリス

<http://p.booklog.jp/book/36749>

著者：ルイス・キャロル

訳者：大久保ゆう

絵：biwanomi

※この翻訳は「クリエイティブ・コモンズ 表示 2.1 日本 ライセンス」
(<http://creativecommons.org/licenses/by/2.1/jp/>) によって公開されています。
上記のライセンスに従って、訳者に断りなく自由に利用・複製・再配布することができます。

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/36749>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/36749>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.